



佐渡市デジタル化構想（案）

令和5年4月10日～5月10日
（パブリックコメント用）
佐渡市総務部総務課デジタル政策室



Webからも閲覧・ご意見提出いただけます👉



- 1章：はじめに
 - 今、なぜデジタルが求められているのか
 - 佐渡市におけるデジタル技術の活用にあたって
 - 佐渡市の特性
 - まちづくりのビジョン
 - 佐渡市デジタル化構想・計画策定の背景・目的
 - 佐渡市デジタル化構想・計画の位置づけ
 - 佐渡市デジタル化構想の策定方針
- 2章：デジタル活用の推進方針
 - 実現したいこと（VISION）、取り組まなければならないこと（MISSION）、大切にしたいこと（VALUE）
 - デジタル活用により取り組まなければならないこと
 - 基本目標1：データに基づくマネジメントで、豊かな自然と共生した安全で快適なまちづくり
 - 基本目標2：組織間の情報連携で、一人ひとりが活躍しいきいきと暮らせるまちづくり
 - 基本目標3：時間・空間の制約を越え、郷土への誇りと未来への希望を育むまちづくり
 - 基本目標4：情報が集まるシカケとコラボで、地域の活力と賑わいあふれるまちづくり
 - 基本目標5：デジタルネットワークを活かして、心豊かで明るい暮らしを未来に繋げるまちづくり
- デジタル技術を取り入れた佐渡市が目指す未来のありたい姿
- 3章：デジタル活用施策
 - デジタル活用施策体系図
- 4章：デジタル活用推進体制
 - デジタル活用推進体制
 - 佐渡市デジタル化推進検討懇談会
 - デジタル人材の育成の考え方



1章：はじめに

今、なぜデジタルが求められているのか ～地方創生×デジタルの必要性～



現在、日本の人口は、2008（平成20）年をピークに減少しており、2050（令和32）年には、2008年比約80%である1億192万人になるとの推計があります。

供給が需要に合わせる経済へ

人口増加の局面では『需要が供給に合わせる』経済が成り立っていましたが、人口減少の局面では『供給が需要に合わせる』経済が必要になってきます。

例えば、これまでは『バス停に来るバスを待つ』といたことが、『バスが顧客の都合に合わせて動く』こととなります。

このようなことを実現するためには、需要と供給をリアルタイムで把握し、供給側の意思決定の確認を待たずに先にものやサービスを動かすような、デジタル基盤が必要になってきます。

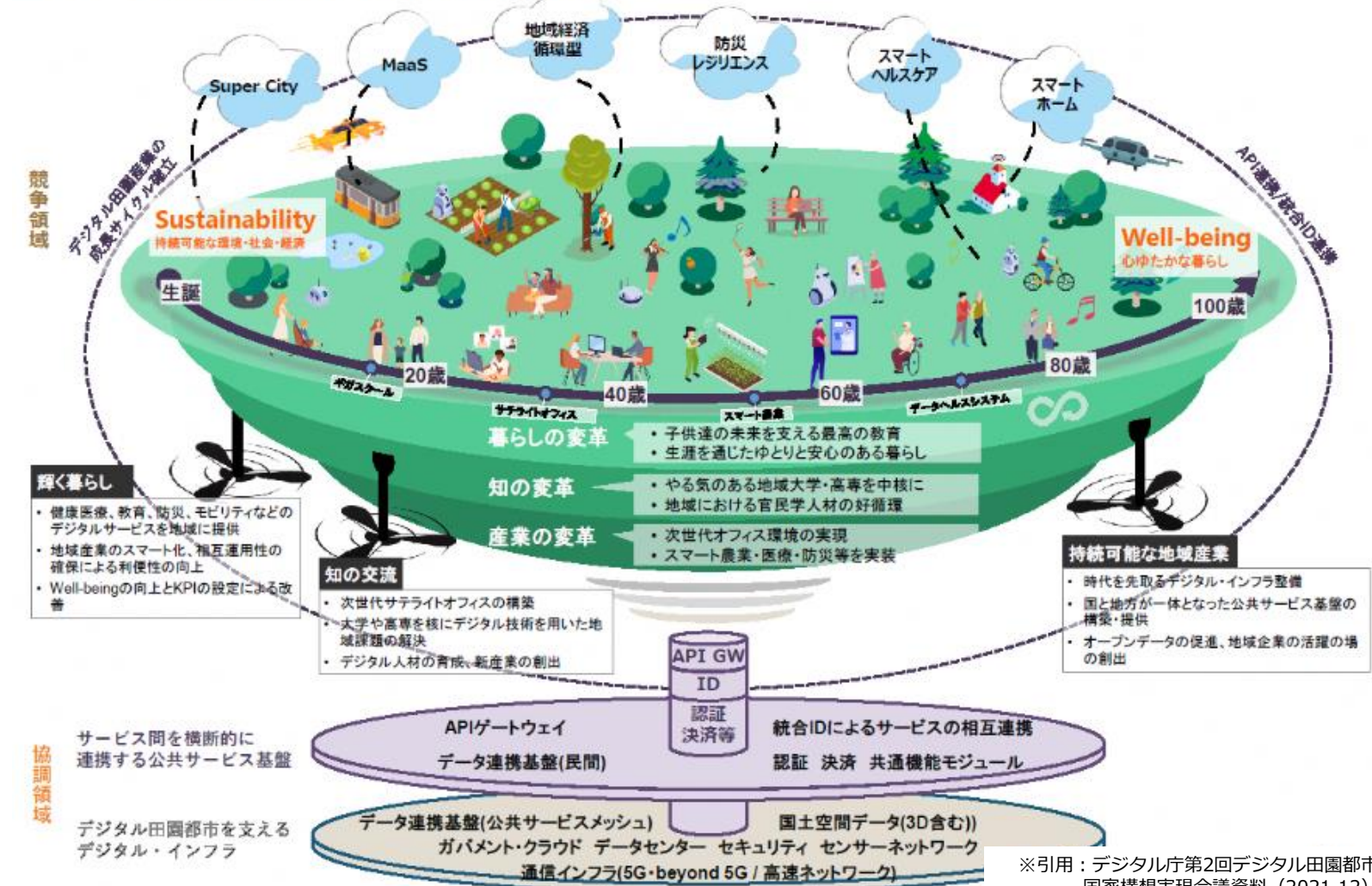
ものづくり中心の経済からサービス中心の経済へ

人口増加期には、拡大する国内市場を前提に、製造業を中心とした長いサプライチェーンに依存する『ものづくり中心の経済』を形成してきました。

しかし、人口減少期では、シェアードエコノミーなども積極的に活用したサービス重視の経済（サーキュラーエコノミー）への移行が必要になってきます。

進まない製造業の立地とサービス業の生産性低迷に悩む地域経済においても、デジタル技術を活用し、共助のビジネスモデルなどを積極的に活用した新たな生活経済モデルを、積極的に構築していくことが必要になってきます。

デジタル田園都市国家構想の取組イメージ



※引用：デジタル庁第2回デジタル田園都市国家構想実現会議資料（2021.12）

今、なぜデジタルが求められているのか ～地方創生×デジタルの必要性～



共助のビジネスモデルの必要性

市場の拡大期は、民間事業者が個別にデジタル投資を行っても投資回収ができましたが、市場の縮小期は、個別にデジタル投資を行うと投資回収できない恐れがあります。

しかし、特定の民間事業者が利用するデータ連携基盤などには、公的部門は支援を入れにくい傾向にあるため、民間事業者は、こうした基盤への投資を進めるためには共同で投資することが必要となります。

共助が支える新たなデジタル生活基盤とまちづくり

多様な生活ニーズや価値観に寄り添うサービスをデジタル技術によって磨いていくためには、複数のサービスが積極的に協力し支え合う、共助のビジネスモデルを土台としたデジタル生活基盤の再構築が必要となります。

共助のデジタル生活基盤を構築した上で、それを土台とした新たな生活サービスの創出と、積極的な市民参画による街の中での繋がりの強化による、Well-Beingの向上に向けたまちづくりの好循環を生み出すことが必要となります。

佐渡市においても、今後、人口減少が進むことが予想され、市民・民間事業者・行政が連携しデジタル活用による地方創生に取り組むことが必要となります。





人口減少社会の地方創生に取り組むにあたっては、デジタイゼーション、デジタライゼーション、デジタルトランスフォーメーションを問わず、デジタル技術の活用を図ります。

デジタイゼーション

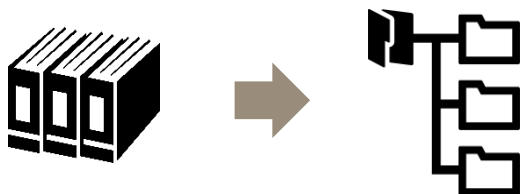
(Digitization)

アナログ・物理データのデジタルデータ化

- ・アナログ情報をデジタル情報に変換
- ・部分的なデジタル化

ITシステムの導入により業務をデジタル化し、業務フローを部分的・局所的にデジタル化すること。

業務効率化の実現が主な目的であり、これまで紙で行ってきた業務をデジタル化すること等がある。



デジタライゼーション

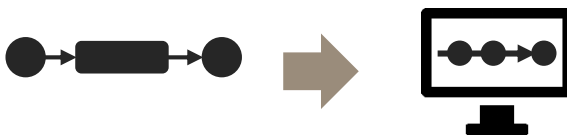
(Digitalization)

個別の業務・製造プロセスのデジタル化

- ・システムにより業務プロセスを最適化
- ・業務全体のデジタル化

システムにより特定の業務・製造プロセスをデジタル化し、プロセス全体を最適化すること。

プロセス全体を通してデジタル化することで、新たな価値やビジネスモデルを生み出すことが目的となる。



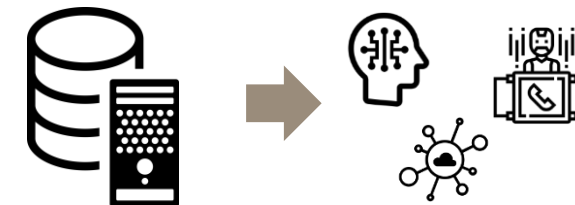
デジタルトランスフォーメーション

(Digital Transformation)

組織横断/全体業務・製造プロセスのデジタル化、顧客起点の価値創出のための事業やビジネスモデルの変革

個別の業務・製造プロセスだけでなく、組織全体をデジタル化することで、ビジネスモデルや組織そのものを変革させていくこと。

デジタル技術でビジネスモデルや組織のあり方そのものを変革することが目的となる。





位置・地形

本市は新潟県のほぼ中央の日本海上に位置する、市域面積約855km²、人口5万642人（2022（令和4）年12月末現在）の離島の都市です。

北側の大佐渡山地と南側の小佐渡丘陵の二列の山地と、これに挟まれた国中平野により形成されており、東には両津湾、西には真野湾があります。大佐渡、小佐渡を通じて数段に及ぶ海岸段丘が発達しており、島を取り巻く海岸線は約280kmに及びます。

島の大部分が国定公園や県立自然公園に指定されており、豊かで美しい自然環境に恵まれています。

文化

本市の文化は、佐渡に配流となった貴族がもたらした貴族文化や、金銀山の発展により奉行や役人たちが江戸からもちこんだ武家文化、商人や船乗りが運んだ町人文化など、三つの文化が渾然一体となって独自の文化を育てており、「佐渡は日本の縮図」といわれています。また、特別天然記念物に指定されたトキが野生下で繁殖し生息するなど、トキと共生する島として知られているほか、江戸時代には国内随一の産出量を誇る金銀の採掘地として栄え、現在も多くの文化財が残されています。

2022（令和4）年5月には、こうした文化的背景を含め、経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域として、「SDGs未来都市」に選定されています。

産業

本市の産業は、農業では、トキとの共生を目指し、生物多様性保全を重視した「生きものを育む農法」による米作りのほか、おけさ柿やルレクチ工などの果樹栽培、アスパラガスなどの園芸栽培が盛んです。漁業では、脂がのった一番美味しい時期に水揚げされる寒ブリや、清浄で栄養豊富な深海に生息する南蛮海老やズワイガニなど、日本海を代表する魚介類が漁獲されています。また、観光では、世界文化遺産に推薦された「佐渡島の金山」をはじめ、世界農業遺産（GIAHS）、日本ジオパークに認定された自然、歴史、文化などの多様な地域資源を活用した滞在型観光を推進しています。

人口動態（2030年の人口予測）

	国勢調査					推計人口	
	2000（平成12）年	2005（平成17）年	2010（平成22）年	2015（平成27）年	2020（令和2）年	2025（令和7）年	2030（令和12）年
国勢調査人口	72,173人	67,386人	62,727人	57,255人	51,492人	46,870人	42,054人
対前増減数	▲2,776人	▲4,787人	▲4,659人	▲5,472人	▲5,763人	▲4,622人	▲4,816人
対前増減率	▲3.70%	▲6.63%	▲6.91%	▲8.72%	▲10.07%	▲8.98%	▲10.28%



本市では、2022（令和4）年度からスタートする新たな「佐渡市総合計画」を策定しています。
佐渡市総合計画は、将来あるべき佐渡の姿と長期的な展望を市民と共有し、総合的かつ計画的な市政運営を図るための最上位計画です。

この「佐渡市総合計画」をまちづくりのビジョンと捉え、デジタル技術を活用した構想を策定します。

基本理念

歴史と文化が薫り 人と自然が共生できる持続可能な島
～子どもからお年寄りまで 誰もがいきいきと輝ける島～

将来像

トキの舞う美しい島

笑顔と長寿の明るい島

人情と優しさのあふれる島

文化の薫るおけさの島

働く汗の光る島

基本目標

- 1：豊かな自然と共生した、安全で快適なまちづくり
- 2：一人ひとりが活躍し、いきいきと暮らせるまちづくり
- 3：郷土への誇りと未来への希望を育むまちづくり
- 4：地域の活力と賑わいあふれるまちづくり
- 5：心豊かで明るい暮らしを未来に繋げるまちづくり

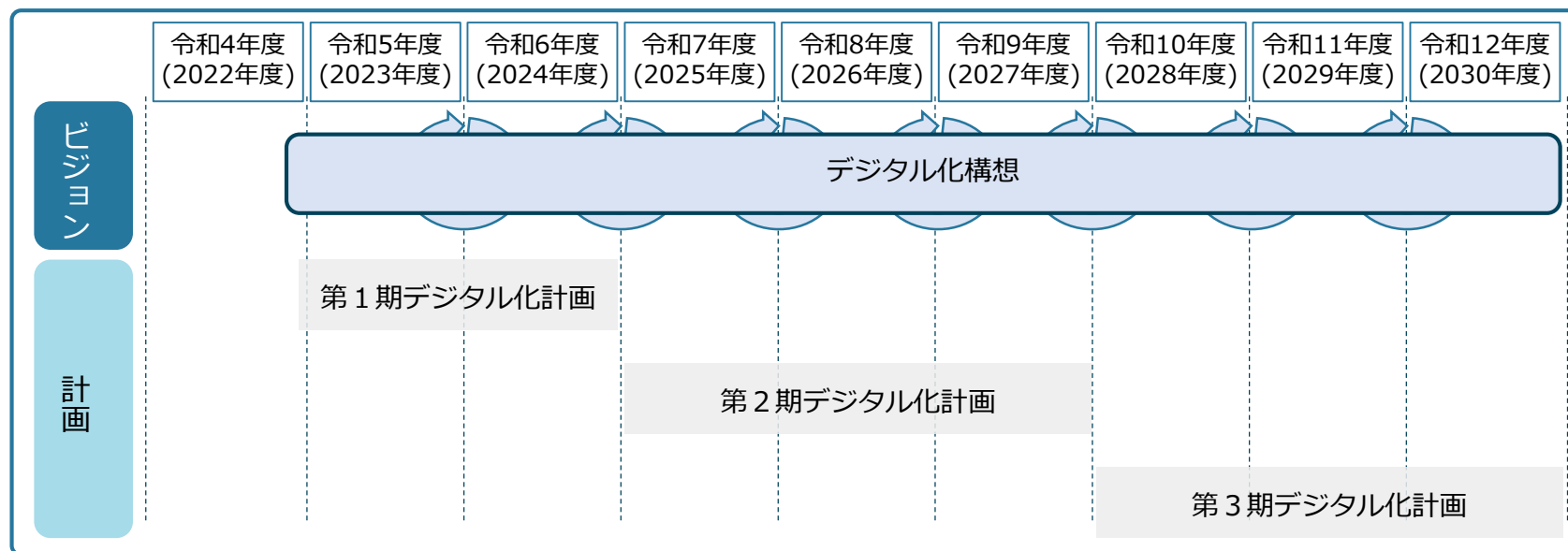
佐渡市デジタル化構想・計画策定の背景・目的



まちづくりのビジョンの実現に向け、「佐渡市総合計画」に掲げる施策の実現に貢献するための手段として、また、総務省が示す自治体DX推進計画に掲げられている重点取組事項※1等の実行に貢献するための基本的方針を示す「佐渡市デジタル化構想・計画」を策定します。

中長期的な視点により、佐渡市が目指すデジタル技術活用社会を明確化し、市民と共有するための構想及び計画とします。また、デジタル技術の活用や社会実装に向けてコラボレーションすべき関係者や適応技術を考えるための指針になるものとしてします。

なお、今回策定するデジタル化構想・計画については、地域課題の動向や日々進化するデジタル関連技術の動向を踏まえ、必要に応じて見直ししながら更新を図るものとしてします。



- ※1：自治体DX推進計画に掲げられている重点取組事項
- (1) 自治体情報システムの標準化・共通化
 - (2) マイナンバーカードの普及促進
 - (3) 自治体行政手続きのオンライン化
 - (4) 自治体のAI・RPAの利用促進
 - (5) テレワークの推進
 - (6) セキュリティ対策の徹底

佐渡市デジタル化構想・計画の位置づけ



「佐渡市総合計画」をもとに、佐渡市デジタル化構想・計画を策定します。
また、「佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の改定版となる「改定佐渡版総合戦略（仮称）」における地域ビジョンを兼ねるものとしします。

佐渡市総合計画

佐渡市が目指すまちづくりの基本理念と将来像、基本目標、その実現に向けた施策の大綱を明らかにし、総合的かつ計画的な市政運営を図るための指針となるもの。
2030（令和12）年度までの基本構想と基本計画で構成。

デジタル活用で実現したい未来

佐渡市デジタル化構想

佐渡市総合計画に掲げる施策の実現に貢献するための「手段としてのデジタル活用」の構想を示すとともに、実行計画である「佐渡市デジタル活用計画」の指針となるもの。

アクションプラン化

佐渡市デジタル化計画

「佐渡市デジタル化構想」に掲げるデジタル施策の実現に貢献するための実行計画。各課が所管する実行計画のうち、デジタル活用に関する部分を具体的に計画化するもの。

※佐渡市における自治体DX推進計画であり、国が掲げる重点項目に関する実行計画・KPIを含めるものとする。

連動



佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略

「まち・ひと・しごと創成法」に基づく国の総合戦略の地方版。
2022（令和4）年度に国は総合戦略を抜本的に改定し、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定。今後、地方は改定された国の総合戦略に基づき、地方版総合戦略を改定する。

改定

改定佐渡版総合戦略（仮称）

※今後策定予定

本市が抱える社会課題などを踏まえ、個性や魅力を生かした「地域ビジョン」を掲げるもの。
国は、地域ビジョンの実現のため、必要な施策間連携を強化し、同様の課題を抱える複数の地方公共団体が連携して課題解決に取り組めるよう、デジタル活用も含めた推進策を提示。

地域ビジョンに包含

佐渡市デジタル化構想

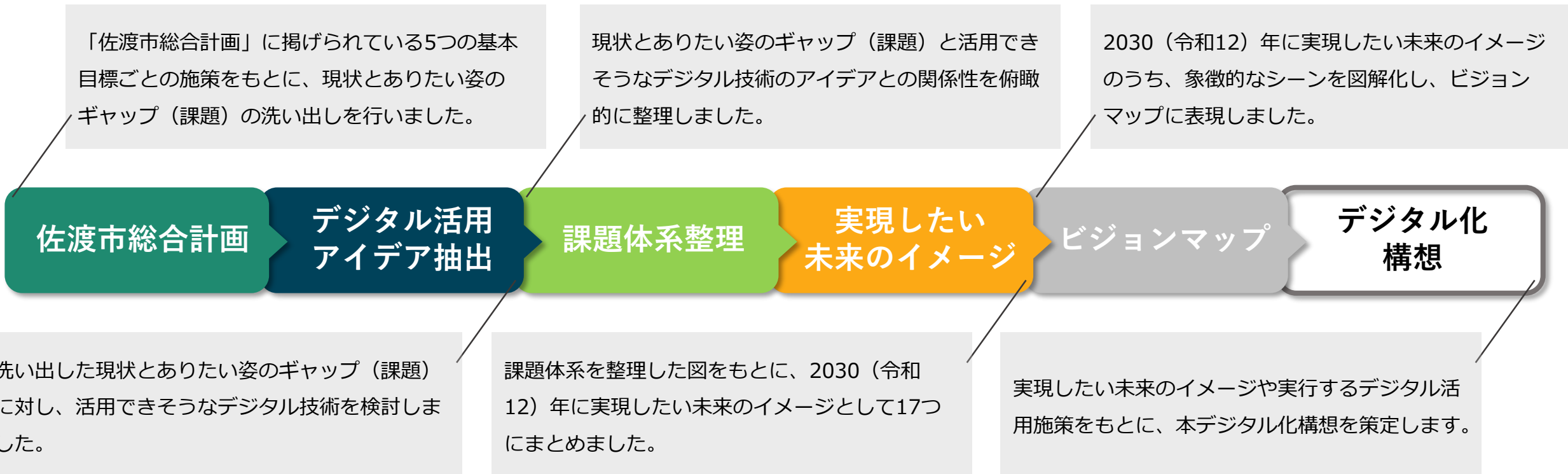
佐渡市デジタル化計画



佐渡市デジタル化構想の策定方針



「佐渡市総合計画」に掲げた施策・課題をもとに、デジタル技術の活用アイデアを抽出し、実現したい未来を描きました。また、実現したい未来のイメージを抜粋した形で、ビジュアルライゼーションしビジョンマップを作成しています。この未来のイメージからバックキャストし、2030（令和12）年のありたい姿を実現するためのデジタル活用施策を明確化しています。





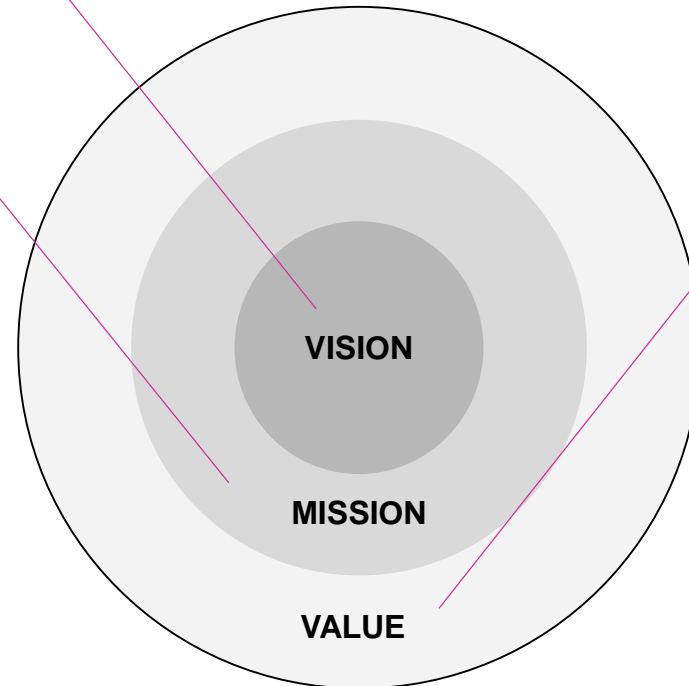
2章：デジタル活用の推進方針

実現したいこと（VISION）、取り組まなければならないこと（MISSION）、大切にしたいこと（VALUE）



「佐渡市総合計画」にて、実現したい佐渡として掲げている理念を、デジタル活用におけるビジョンと捉えます。ビジョン実現に向けて取り組まなければならないことを、市民、民間事業者、行政とが一体となり、それぞれの役割や得意分野を生かしながら協力して挑戦します。大切にしたいことを関係者と共有しながら取組を進めます。

歴史と文化が薫り 人と自然が共生できる持続可能な島
～子どもからお年寄りまで 誰もがいきいきと輝ける島～



- データに基づくマネジメントで、豊かな自然と共生した安全で快適なまちづくり
- 組織間の情報連携で、一人ひとりが活躍しいきいきと暮らせるまちづくり
- 時間・空間の制約を越え、郷土への誇りと未来への希望を育むまちづくり
- 情報が集まるシカケとコラボで、地域の活力と賑わいあふれるまちづくり
- デジタルネットワークを活かして、心豊かで明るい暮らしを未来に繋げるまちづくり

- 市民参加と歴史・文化・自然の尊重
- デジタルモラルの醸成で次世代が希望を持つことができる地域社会
- 新しいことにトライし、成功への過程を許容する ※ただし、ベストを尽くすこと！

デジタル活用により取り組まなければならないこと



デジタル技術を活用することにより、「佐渡市総合計画」に掲げる各基本目標の実現に貢献します。

基本目標 1

データに基づくマネジメントで、豊かな自然と共生した
安全で快適なまちづくり

佐渡の資源や自然に関するデータを集め、データを共有・活用したマネジメントを実現することで、人々が安心して暮らせるまちづくりに貢献します。

基本目標 2

組織間の情報連携で、一人ひとりが活躍し
いきいきと暮らせるまちづくり

健康に関するデータを連携し、異なる組織で共有・連携することでシームレスな包括ケア体制を強化し、幸せで健康に暮らせるまちづくりに貢献します。

基本目標 3

時間・空間の制約を越え、
郷土への誇りと未来への希望を育むまちづくり

いつでも、どこでも、いつまでも、世代を越えて学び合える空間をつくり、佐渡の文化を継承する仕組みづくりに貢献します。

基本目標 4

情報が集まるシカケとコラボで、
地域の活力と賑わいあふれるまちづくり

魅力ある佐渡のあらゆる資源を有効活用するために、データをつなげ、企業間・産業間をつなげ、活力と賑わいのあふれる産業振興に貢献します。

基本目標 5

デジタルネットワークを活かして、
心豊かで明るい暮らしを未来に繋げるまちづくり

市民にとって身近な行政でありつつ、かつ、市民と市民がつながり、ともに協力し合って創る佐渡の未来にデジタル技術で貢献します。

デジタル活用で実現したい未来のイメージ

基本目標 1 : データに基づくマネジメントで、豊かな自然と共生した安全で快適なまちづくり



佐渡の資源や自然に関するデータを集め、データを共有・活用したマネジメントを実現することで、人々が安心して暮らせるまちづくりに貢献します。

データに基づくマネジメントで、豊かな自然と共生した安全で快適なまちづくり

1. 防災・防犯・生活・環境

みんなでつくる・つながる、いのちを守るための災害対応

災害に関する様々な情報を集約し、欲しい情報をタイムリーに市民に届け、市民同士が情報を投稿し合うことで自助・共助の関係を作り上げ、みんなが助け合う災害に強いレジリエンスなまちづくりに貢献します。

誰でも安全で快適なモビリティサービス

車の運転が困難な方々にも様々な公共交通機関を利用できる新たな交通体系を確立し、交通事故を減らしながらすべての市民がアクセスできる仕組みを創ります。

グリーンで最適なインフラの実現

自然豊かな資源を活用した水道、自然に優しい下水道、自然と調和した道路保全など、データの活用によるグリーンに配慮したアセットマネジメントを実現します。

ネイチャーポジティブな自然資源マネジメント

生物多様性を維持していくためのデータの蓄積、評価、自然資源の保全という流れを作り上げ、脱炭素社会にも寄与する資源のマネジメントを実現します。

エネルギー循環の仕組み

再生可能エネルギーによる発電・蓄電、マイクログリッド等を統合し、仮想的な発電所として捉え、需要予測や供給とのバランスを最適制御することで、エネルギーを滞りなく届けます。災害時の停電にも強い島を実現します。

デジタル活用で実現したい未来のイメージ

基本目標 2：組織間の情報連携で、一人ひとりが活躍いきいきと暮らせるまちづくり



健康に関するデータを連携し、異なる組織で共有・連携することでシームレスな包括ケア体制を強化し、幸せで健康に暮らせるまちづくりに貢献していきます。

組織間の情報連携で、一人ひとりが活躍いきいきと暮らせるまちづくり

2. 医療・介護・福祉

医療・介護・福祉・救急の垣根を越えたケアの実現

オンライン診療により遠隔地でも医師の診療が受けられたり、組織の壁を越えてデータ・情報を連携することにより、地域全体で医療・介護・福祉・救急が連動する体制の実現に貢献します。

データに基づく楽しい健康づくりのシ・カ・ケ

蓄積された健康・医療にかかわるデータの分析・活用により、健康イベントへの参加を促したり、食生活等のアドバイスをお知らせしたり、幸せ×健康（シアワセ カケル ケンコウ）する仕掛けづくりを行います。

垣根を越えた地域ぐるみの子育て

「子どもは地域で守る」をモットーに、様々な関係者間におけるデータの連携を実現するとともに、オンラインでの相談や地域内・地域間での相談ができる環境を構築します。



デジタル活用で実現したい未来のイメージ

基本目標3：時間・空間の制約を越え、郷土への誇りと未来への希望を育むまちづくり



いつでも、どこでも、いつまでも、世代を越えて学び合える空間をつくり、佐渡の文化を継承する仕組みづくりに貢献します。

時間・空間の制約を越え、郷土への誇りと未来への希望を育むまちづくり

3. 教育・文化

いつでも・どこでも・いつまでも世代を越えた学び合い ～何歳からでも輝ける～

教材や授業のデジタル化、教室をバーチャルでつなぐことで学ぶ空間を作るとともに、子どもが高齢の方に身近なデジタルツールの使い方を教える、高齢の方が子どもにデジタルを使って歴史や文化を教える場を作ります。

一人ひとりの個性を伸ばす教育ダイバーシティ

離島でありながら、すべての子どもにあらゆる選択ができるように、日本中・世界中とつなげ、学校で習うこと以外のスポーツや文化についても学ぶ機会・場を創出します。

距離と時間を越えた文化継承を育むコミュニティ

長い間引き継いできた佐渡の文化的遺産をアーカイブしながら、佐渡島内に限定することなく地理的な制約を越えて次の世代に継承していくとともに、文化財の新たな価値創出に貢献します。



デジタル活用で実現したい未来のイメージ

基本目標 4 : 情報が集まるシカケとコラボで、地域の活力と賑わいあふれるまちづくり



魅力ある佐渡のあらゆる資源を有効活用するために、データをつなげ、企業間・産業間をつなげ、活力と賑わいのあふれる産業振興に貢献します。

情報が集まるシカケとコラボで、地域の活力と賑わいあふれるまちづくり

4. 産業振興・雇用

データでつなげる・とどけるシティプロモーションで佐渡ファンの拡大

佐渡に興味のある人の行動に関わる様々なデータを蓄積し、デジタルマーケティングにより商品や観光・文化・アクティビティなどの佐渡の魅力を効果的にプロモーションすることで、関係人口の増大を目指します。

スタートアップと地場企業のコラボレーションで産業振興にシナジーを

佐渡で起業するスタートアップと、佐渡の資源を強みとする地場産業がデジタルテクノロジーの活用により連携することで相乗効果を図り、産業振興に貢献します。

ニーズに合わせた地場産品の高付加価値化とサプライチェーンの構築

欲しい人に欲しいものが届けられる・ダイレクトにつながるサプライチェーンを構築し、佐渡の産品の高付加価値化をもたらし、稼げる農林水産業を実現することで、担い手不足の解消を図ります。

みんなが使えるキャッシュレスで島内経済循環活性化

地域ポイントやプレミアム商品券などに加え、健康づくりやボランティア活動への参加ポイントも統合し、みんなが使えるキャッシュレス決済サービスを浸透させることで、あらゆる場面での利用促進により島内の経済循環に貢献します。

デジタル活用で実現したい未来のイメージ

基本目標 5 : デジタルネットワークを活かして、心豊かで明るい暮らしを未来に繋げるまちづくり



市民にとって身近な行政でありながら、市民と市民がつながり、ともに協力し合って創る佐渡の未来にデジタル技術で貢献します。

デジタルネットワークを活かして、心豊かで明るい暮らしを未来に繋げるまちづくり 5. 市民活動・行政活動

より良い佐渡をみんなで創るための共創的コミュニティの実現

市民が積極的に参画し、佐渡市の未来のために一緒につくる共創的コミュニティをデジタル技術を活用しながら実現するとともに、地域内での交流や集落交流を活性化します。

イケてる行政 ～便利で身近で時代に即した頼れる市役所～

デジタル技術を駆使し、庁内事務業務の効率化・高度化を実現し、行政サービスの質の向上を図ります。遠隔での行政手続きや移動型市役所等も浸透させることで、コンパクトでありながら市民に身近な行政であり続けます。

デジタル技術を取り入れた佐渡市が目指す未来のありたい姿



デジタル技術を取り入れ、2030（令和12）年に佐渡市が目指す未来のありたい姿をビジュアライゼーションするため、ビジョンマップとして作成しました。

実現したい未来のイメージのうち、象徴的なデジタル活用シーンを描いています。

市民、民間事業者、行政が、共通のイメージを持ち、連携して取り組むことを目的としています。

2030年、デジタル技術を取り入れた佐渡市が目指す未来のありたい姿（案）

- Vision / 実現したいこと
- Value / 大切にしたいこと

歴史と文化が薫り 人と自然が共生できる持続可能な島 ～子どもからお年寄りまで 誰もがいきいきと輝ける島～

- その1 市民参加と歴史文化・自然の尊重
- その2 デジタルモラルの醸成で次世代が希望を持つことができる地域社会
- その3 新しいことにトライし、成功への過程を許容する ※ただし、バストを尽くすこと！

データに基づくマネジメントで、豊かな自然と共生した安全で快適なまちづくり

1. 防災・防犯・生活・環境

① 一目でわかる災害予測・状況配信
県・市の連携で島内情報を集約。被害予測をスマホで受け取り、家族や隣人に事前に声かけ。みんなで備える。これが未来のレジリエンスだ！

② シェアしてハッピーな助け合い交通
呼んだら来るデマンド交通だから免許返納も安心。島民・観光客みんなでシェアする環境にも優しい交通網。

③ スマートエネルギー
発電事業者は島内の電力需給のモニタリングで電力マネジメントを最適化。余った電力は蓄電してシェア。

④ お手軽エネルギーシェア
未来のEV充電はポータブル蓄電池の交換で済んじゃうかも。蓄電池は様々な電気機器に対応。もはや停電のない世界が広がっている！

⑤ 楽ちん除草ロボット
2030年には佐渡米全てがトキ認証米かも！減農薬栽培で増える除草作業は機械化で効率化！

組織間の情報連携で、一人ひとりが活躍しいきいきと暮らせるまちづくり

2. 医療・介護・福祉

⑥ ボイ活で健康づくり
毎日歩いたり、地域活動に参加して心身ともに元気に年を重ねよう！活動でグッドした地域ポイントで温泉に入ればもっと健康に！

⑦ ノンストップ医療
スマホでお家からカンタン問診。診察予約～オンライン診療～薬の配達までノンストップ！マイナ保険証や地域の仕組みで組織連携が円滑に。

⑧ 地域連携で見守り
地域全体で子どもやお年寄りをサポートできるよう、学校・行政・病院・民間など組織連携を円滑にする仕組みをつくらう！

時間・空間の制約を越え、郷土への誇りと未来への希望を育むまちづくり

3. 教育・文化

⑨ ヤング×シニア相互学習
子ども・若者からはスマホの使い方など新しい技術を、いっちゃんばあちゃんからは歴史や文化など郷土愛を。だけでなく、社会人やシニア世代のリスニングにも！

⑩ 自宅で海外留学
佐渡にいながらオンラインで自分の学びたいことを自由に学べる環境に。子どもも歴史や文化を消費喚起。エリア関係なく思いやりあふれる！

⑪ パーチャル「龍」体験
佐渡の文化に触れてもらおう。さっけとしてパーチャル空間で文化体験。伝統文化継承の新しいカタチに挑戦！

デジタルネットワークを活かして、心豊かで明るいきいきとした未来に輝けるまちづくり

5. 市民活動・行政活動

⑫ 次世代カイトランパン
シニアも使いやすいタブレット等で実現する島民同士の情報交換コミュニティ。集落の垣根を越えた共創的コミュニティでより良い佐渡をみんなで作ろう！

⑬ カンタン本人確認
役所手続きの為に悩む仕事を休むなんてもうやだ！マイナンバーカードでカンタン本人確認・書類記入の面倒削減！

⑭ いつでもどこでも行政手続き
自宅にいても、いつでもスマホで役所手続きが完結。みんなが普段使っているツールで市民と行政の接点を強化！

情報が集まるシカケとコラボで、地域の活力と賑わいあふれるまちづくり

4. 産業振興・雇用

⑮ パーチャル空間で佐渡巡り
パーチャル空間で旅行気分。観光中に目にした佐渡の特産品に釘付け... よーし、ふるさと納税で買ってみよう！

⑯ 佐渡産品のロジスティクス変革
生産者と業者間のニーズに即したマッチングで付加価値の高い取引を実現。顧客混載とのコラボで集出荷を支援。

⑰ 島内地域ポイントの統一
行政が発行する地域ポイントを一元化。市民も店舗も使いやすいポイントサービスで消費喚起。エリア関係なく思いやりあふれる。

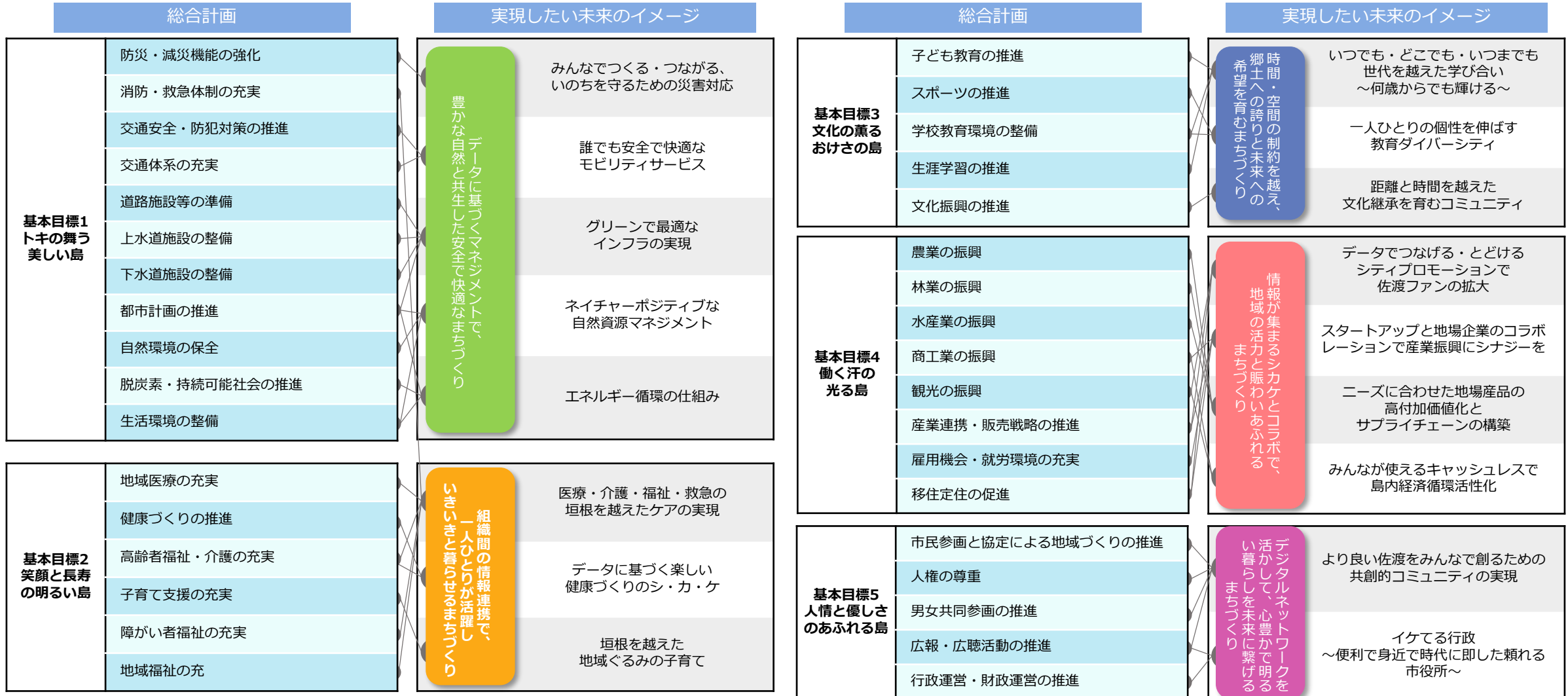


3章：デジタル活用施策

デジタル活用施策体系図



総合計画における施策とデジタル活用により実現したい未来のイメージ、及びデジタル活用施策の関係を示します。



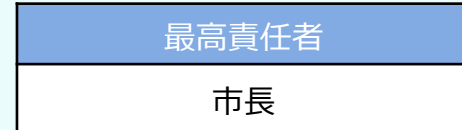


4章：デジタル活用推進体制



佐渡市のデジタル化構想、計画の実行にあたっては、市長を最高責任者、副市長を最高情報責任者とし、ビジョンの実現に向けて各担当課が責任を持って推進する体制とします。

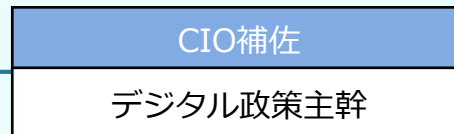
佐渡市デジタル活用推進体制



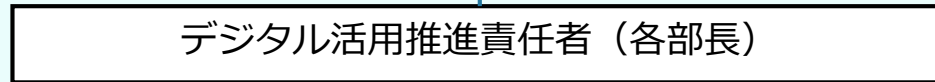
最高責任者
市長
佐渡市のデジタル活用に関する最高責任者。
市が目指す方向性を示すとともに、ビジョン・計画策定、及び実行などデジタル政策推進にて行う活動、成果物、予算の最終決定・承認を行う。



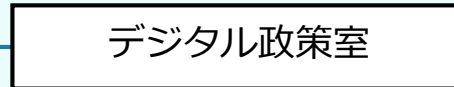
CIO
副市長
佐渡市のデジタル活用推進に関する戦略と調達マネジメントに関する責任と権限を有する。
策定したビジョンや基本方針に沿い、有効な調達の予算査定及びマネジメントを一括して行う。



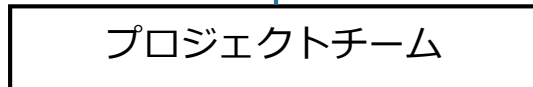
CIO補佐
デジタル政策主幹
佐渡市のデジタル活用推進に関するビジョン及び計画の策定における方針明確化、計画のとりまとめを行う。CIOの担務に関する助言・支援を行う。各種外部組織等に参画し、全体ビジョンとの整合性を取りながら、意見・助言・調整を行う。



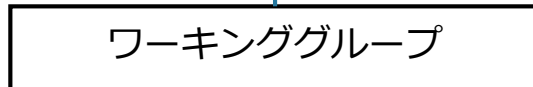
デジタル活用推進責任者（各部長）
庁内の意思決定や部門間での調整を行うとともに、デジタル化構想・計画を実行していく上で、担当部門の実行責任を負う。



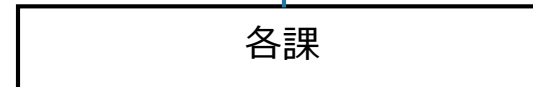
デジタル政策室
佐渡市のデジタル活用推進に関するビジョン及び計画の策定をマネジメントする。懇談会の運営、連携部門、各種関連コンソーシアム等との実務レベルでの調整を行うとともに、庁内各セクションの取組に関する技術的な助言や推進を支援する。



プロジェクトチーム
佐渡市のデジタル化構想・計画を実行していく上で、庁内横ぐしで実行するプロジェクトについて、個別にチームを立ち上げ、推進する。



ワーキンググループ
佐渡市のデジタル化構想・計画を実行するにあたり、短期的に検討・調査を行うための庁内横串のグループを立ち上げ、推進する。
(例：デジタルリーダーの取組みなど)



各課
デジタル化構想の実現に向けて、実行計画の策定や計画の実行を行う。

佐渡市デジタル化推進検討懇談会

本市において、デジタル社会の構築に向けた取組を迅速かつ着実に進めていくため、基本の方針及び具体的取組を示す「佐渡市デジタル化構想・計画」の策定にあたり、広く有識者等から意見、助言等を求めることを目的に「佐渡市デジタル化推進検討懇談会」を設置しています。



デジタル人材の育成の考え方



進展のスピードが極めて速いデジタル技術を活用し、地域課題の解決や行政サービスの効率化・高度化を図るためには、すべての行政職員が変革意識を持ちながら、デジタル技術を使いこなすことができるようになる必要があります。本市では3つのカテゴリにおいて、デジタル活用を推進するための人材の育成・確保に努めます。



育成・確保の考え方

デジタルイノベーター	デジタルデベロッパー	デジタルプロモーター
<ul style="list-style-type: none"> デジタル化構想の実現、デジタル化計画を実行しながら、デジタル化推進スキルを身に付ける。 外部のセミナー・研修を受講し、デジタル化推進スキルを習得する。 資格取得によりデジタルテクノロジーの専門知識を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル化構想・計画の推進と連動した現行システムの改修や新規システム開発に参画しながら、デジタルシステムの実現スキルを身に付ける。 外部のセミナー・研修を受講、資格取得によりデジタルテクノロジーの専門知識を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル化構想の実現、デジタル化計画の実行にあたり、関係する政策に参画し、デジタル化に関するリテラシーを身に付ける。 外部のセミナー・研修を受講、資格取得によりデジタルテクノロジーの基礎知識を習得する。



<https://www.city.sado.niigata.jp/>